

メキシコ金融政策（2019年11月）

メキシコ銀行は0.25%ポイントの利下げを実施

2019年11月15日

メキシコ銀行は3会合連続の利下げ

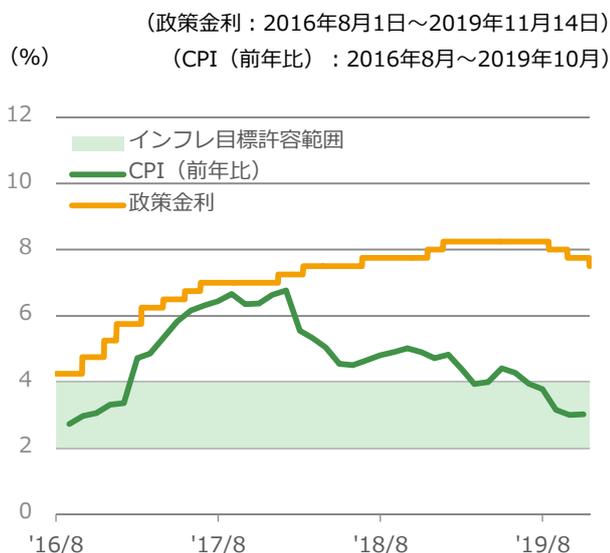
メキシコ銀行（中央銀行）は11月14日（現地）、政策金利を0.25%ポイント引き下げ、7.50%とすることを決定しました。利下げは8月、9月に続いて3会合連続であり、市場ではほぼ利下げが予想されていました。また、理事会メンバーの5人のうち2人が0.50%ポイントの引き下げを支持しました。

メキシコ銀行は声明文で、国内経済の先行きに慎重な見方を示すとともに、インフレ率の鈍化などに言及しています。また、米中貿易摩擦や英国のEU（欧州連合）離脱問題に関するリスクは幾分後退したとしつつも、貿易摩擦や地政学リスク、社会不安などが依然として世界経済への下方圧力として残るとしています。メキシコ銀行の政策金利は米国に追随する傾向があり、今回の利下げも10月のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で利下げを実施したことに追随した動きと考えられます。

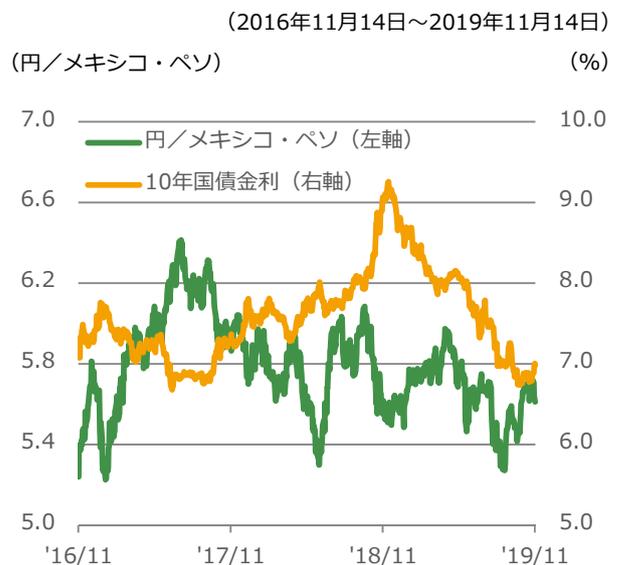
金融政策の先行きについて、メキシコ銀行はインフレなどの状況を注視しつつ、適宜必要な措置をとるとしています。10月のFOMC以降、米国の追加緩和期待は大きく後退しましたが、メキシコ国内の経済状況やインフレ鈍化傾向を考慮すると、次回12月の理事会で追加利下げを行う可能性が高いと考えています。

為替市場に関しては、米中通商協議に進展がみられることに加え、世界的な金融緩和環境が新興国通貨の追い風になるとみています。外部環境の改善が継続すれば、相対的に金利の高い新興国市場への資金流入が期待され、メキシコ・ペソの上昇を後押しすると考えています。

政策金利と消費者物価指数（CPI）の推移



為替と国債金利の推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。